禅の風

第五十三号

特集

太祖瑩山禅師の生涯

衆生とともに歩む

監修・佐藤秀孝　駒澤大学仏教学部教授

対談

生きづらい時代に禅を生かす

インタビュー

太祖瑩山紹瑾禅師七〇〇回大遠忌に寄せて

石附周行　曹洞宗大本山總持寺貫首

小橋賢児　クリエイティブディレクター

盛田正孝　曹洞宗大本山總持寺　副貫首

青山俊董　曹洞宗大本山總持寺　西堂

【禅の風】　第五十三号　特集　太祖瑩山禅師の生涯　衆生とともに歩む

曹洞宗宗務庁

9784880655581

1920415013008

ISBN978-4-88065-558-1
C0415　¥1300E

発行所：曹洞宗宗務庁
発売所：水曜社

定価：本体 1,300 円＋税

禅の風

第五十三号　目次

対談……4
生きづらい時代に禅を生かす
石附周行　曹洞宗大本山總持寺貫首
小橋賢児　クリエイティブディレクター

インタビュー・太祖瑩山紹瑾禅師七〇〇回大遠忌に寄せて
盛田正孝　曹洞宗大本山總持寺　副貫首……12
青山俊董　曹洞宗大本山總持寺　西堂……15

特集……18
太祖瑩山禅師の生涯
衆生とともに歩む
監修・佐藤秀孝　駒澤大学仏教学部教授

生誕・家族……20
永平寺……23
行脚・誓願……24
城萬寺……27
大乗寺……28
二大弟子……32
永光寺……35
總持寺……42
遷化……44

特集関連企画……46
大本山總持寺紫雲臺の障壁画

詣　禅寺を訪ねる……50
高岡山瑞龍寺
―中国禅宗寺院を範とした国宝の伽藍

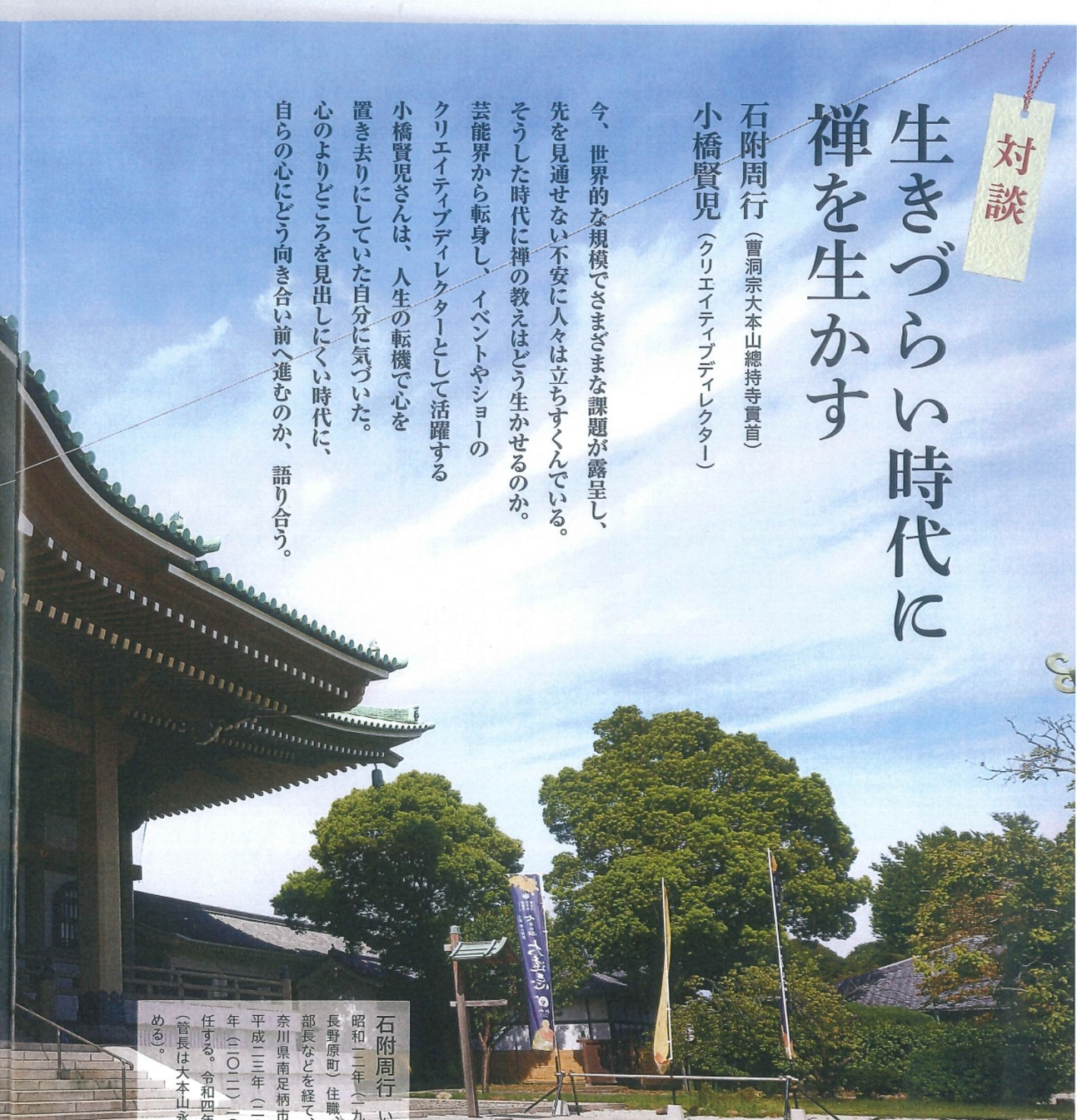
誌名題字は、高祖道元禅師の残された文書から「禅」「の」「風」の三文字を集字しました。

対談

生きづらい時代に禅を生かす

石附周行（曹洞宗大本山總持寺貫首）
小橋賢児（クリエイティブディレクター）

今、世界的な規模でさまざまな課題が露呈し、先を見通せない不安に人々は立ちすくんでいる。そうした時代に禅の教えはどう生かせるのか。芸能界から転身し、イベントやショーのクリエイティブディレクターとして活躍する小橋賢児さんは、人生の転機で心を置き去りにしていた自分に気づいた。心のよりどころを見出しにくい時代に、自らの心にどう向き合い前へ進むのか、語り合う。



石附周行 いしづき・しゅうこう
昭和二二年（一九三七）群馬県生まれ。宗泉寺（群馬県長野原町）住職、雙林寺（同渋川市）住職、曹洞宗伝道部長などを経て、平成八年（一九九六）から最乗寺（神奈川県南足柄市）山主、最乗寺専門僧堂堂長に就任。平成二三年（二〇一一）、大本山總持寺副貫首。令和三年（二〇二一）一〇月から同貫首（独住第二十六世）に就任する。令和四年（二〇二二）一月二日から曹洞宗管長（管長は大本山永平寺貫首と總持寺貫首が二年交代で務める）。

小橋賢児 こはし・けんじ
昭和五四年（一九七九）東京都生まれ。昭和六三年（一九八八）に俳優としてデビュー、数多くの人気ドラマに出演。平成一九年（二〇〇七）に芸能活動を休止し世界中を旅する。帰国後『ULTRA JAPAN』のクリエイティブディレクターや『STAR ISLAND』の総合プロデューサーを歴任し国内外で成功させる。ドローンを使用した夜空のスペクタクルショー『CONTACT』は「ACEイベントアワードにて最優秀賞の経済産業大臣賞を受賞。令和三年（二〇二一）東京2020パラリンピック競技大会閉会式のショーディレクターを務め、また、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）の催事企画プロデューサーに就任する。その他、地方創生、都市開発に携わるなど常に時代に新しい価値を提供し続けている。

特集

太祖瑩山禅師の生涯

衆生とともに歩む

監修　佐藤秀孝　駒澤大学仏教学部教授

日本曹洞宗には二人の祖師がいる。

一人は道元禅師（一二〇〇～一二五三）であり、越前（福井県）に吉祥山永平寺を開いた。

いま一人が瑩山紹瑾（けいざんじょうきん）禅師（一二六四～一三二五）である。

瑩山禅師は道元禅師から数えて四代目の祖師であり、能登（石川県）に洞谷山永光寺や諸嶽山總持寺を開いた。

總持寺は明治時代に神奈川県横浜市に移転して現在に至る。

永平寺と總持寺は、曹洞宗の両大本山である。

道元禅師は宗旨の祖、瑩山禅師は教団の祖とされる。

曹洞宗寺院は全国に約一万四〇〇〇カ寺を数えるが、そのような大教団に発展する礎を築いたのが瑩山禅師であった。

曹洞宗では仏教の祖・釈迦牟尼仏（しゃかむにぶつ）（釈尊）を中央に配し、道元禅師を高祖（こうそ）と称して向かって右に祀り、瑩山禅師を太祖（たいそ）と称して向かって左に祀り、「一仏両祖（いちぶつりょうそ）」として信仰の対象に仰いでいる。

本特集は、瑩山禅師の教えに触れながら、その生涯の足跡を訪ねるものである。

（二〇二三年九～一〇月、取材・写真撮影（提供写真を除く））

※本特集では、禅師、大師、上人、和尚などの敬称を一部省略させていただきました。

※本特集では、年齢を数え年で記載しています。

瑩山禅師の主な関連寺院

瑩山禅師が開いた洞谷山永光寺（石川県羽咋市）の「五老峯」（37ページ参照）

詣 禅寺を訪ねる

高岡山瑞龍寺

中国禅宗寺院を範とした国宝の伽藍

富山県高岡市の高岡山瑞龍寺（こうこうざんずいりゅうじ）は、
加賀二代藩主・前田利長の菩提寺。
江戸時代を代表する禅宗寺院建築であり、
多くの建物が国宝や重要文化財に
指定されているが、
同寺は城郭を兼ねていたとする説や、
利長の位牌の祀り方についてなど、
数々の謎もあるという。
加賀百万石の至宝、瑞龍寺を訪ねる。

※本稿では、前田利家を加賀初代藩主、利長を二代藩主、利常を三代藩主として記載しています。加賀藩藩主については、利家が江戸幕府開府以前に没していることや、前田家が江戸幕府から領知判物を与えられた時期（一六一四年）などから、利長を初代藩主、利常を二代、あるいは利長を藩祖、利常を初代藩主とみるなど他の見解もあります。

所在地　：富山県高岡市関本町35
電　話　：0766-22-0179
H　P　：https://www.zuiryuji.jp
アクセス：JR・あいの風とやま鉄道「高岡」駅から徒歩約10分。JR「新高岡」駅（北陸新幹線）から徒歩約15分

瑞龍寺は伽藍全体が重要文化財。うち山門、仏殿、法堂は国宝であり、高い完成度や美しい配置構成、社会・文化に影響を及ぼした曹洞宗の建築を知るうえでの深い意義などが評価された。瑞龍寺開山は、総持寺住持も務めた広山恕陽（こうざんじょよう）。ちなみに前田家は総持寺最大の外護者であり、加賀藩前田家の祖・前田利家も総持寺住持を務めた大透圭徐（だいとうけいじょ）に帰依していた。三代藩主・利常は総持寺に寺領400石を与えている